

よもやま歴史教室

2025

さまざまな歴史を学習することにより、心に栄養を与え、豊かに生きるヒントをみつけていただきたい。
皆様、ぜひご参加ください。

第 7 回

令和 8 年

1 / 17 (土)

午後 2 時 ~

「冠ヶ嶽(鎌ヶ岳)乃記」を読む

— 菰野藩 10 代藩主 土方雄興について —

講師 元高等学校国語科教諭 むぎしま ひでお 麦島 英男 先生

第 8 回

2 / 14 (土)

午後 2 時 ~

名城を訪ねて

— 長年踏査した現存 12 天守を主体に —

講師 おぐら きよし よもやま歴史サークル会員 小倉 清 先生



第 9 回

3 / 14 (土)

午後 2 時 ~

今こそ学ぼう拙堂に

— 地政学の草分け、齋藤拙堂 —

講師 さいとう しょうわ 拙堂研究家 齋藤 正和 先生



【会 場】 菰野町庁舎 4 階会議室

※東玄関よりお入りください。

【受講料】 各回 200 円 (高校生以下無料)

■当日受付にて、住所、氏名、連絡先をご記入ください。

※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。

※天候等諸事情により中止や変更となる場合があります。

中止等となる場合は、菰野町役場 HP、防災ラジオ等でお伝えいたします。

各 回
詳 細 は
裏 面 へ

令和 8 年
1/17(土)

午後 2 時～

講師 元高等学校国語科教諭

麦島 英男 先生

講師紹介

昭和 38 年三重大学学芸学部（現教育学部）卒業。四日市高校勤務中、四日市市あさけプラザ図書館より依頼を受け、「万葉集」「源氏物語の女性たち」「清少納言と枕草子」「大鏡の中の人々」「伊勢物語と在原業平」などの古典講座を担当する。平成 17 年に四日市から菰野町へ移住。菰野へ移住後、菰野町の歴史に触れ、菰野藩は小藩といえども十二代続いた土方氏を知り、特に十代藩主土方雄興公は諸公の中でも珍しい文人藩主であることを知る。

2/14(土)

午後 2 時～

講師 よもやま歴史サークル会員

小倉 清 先生

講師紹介

1948 年四日市市本郷町生まれ。今を去る 40 年程前に菰野に移転し、現在は菰野町竹成に在住。四日市工業高校在学中から山登りが好きで、日本中の山に登っていました。途上、各地の歴史的遺物の見学が好きになり、城郭、社寺仏閣、仏像、古墳、名所、古跡を回っていました。平成 12 年ごろからデジタルカメラに熱中し、写真を撮りまくっていました。歴史サークルには、10 年前から入会し、現在にいたっております。

3/14(土)

午後 2 時～

講師 拙堂研究家 齋藤 正和 先生

講師紹介

菰野町在住。昭和 5 年（1930）に三重県津市に齋藤拙堂の玄孫として生まれる。津中学（旧制）八高（旧制一年）を経て、（新制）神戸大学経済学部へ。昭和 28 年卒業。四日市倉庫株式会社（現日本トランスシティ株式会社）入社。社員、役員を歴任。平成 13 年退社後、三重大学大学院、名古屋大学大学院に学び、平成 24 年（2012）博士（文学）を授与される。齋藤拙堂顕彰会顧問。藤堂藩五日会会員。

「冠ヶ嶽(鎌ヶ岳)乃記」を読む

—菰野藩 10 代藩主 土方雄興について—

講演要旨

菰野藩十代藩主土方雄興公は、寛政 11 年（1799 年）に生まれ、天保 9 年（1838 年）に 39 歳の若さで逝去。旧菰野町史によれば「調馬剣槍の技を練り、傍ら文学を討究するを日課とせり」と文武両道に長じていました。また、雄興公は特に和歌を好み、城中で歌会を開催して自らも速詠し、公の歌風は形容修飾を避けて林泉風景の自然を対象としており、現存するもののみでも 1 万 200 余首に達していると旧菰野町史に記されています。

文政 5 年（1822 年）23 歳の時に、冠嶽（鎌ヶ岳）に登り「冠嶽乃記」を、別の年に御在所嶽に上り「おく山ふみ」を書いています。その行程で前者は 13 首、後者は 10 首の和歌を詠み、道中の山道の様子を詳しく述べ、その時その時の感慨を、いかにも若者らしく生き生きとした描写で素直に述べています。

今回、「冠嶽乃記」を読み、土方雄興公の人柄の一旦に触れてみたいと思います。

名城を訪ねて

—長年踏査した現存 12 天守を主体に—

講演要旨

近頃の歴史ブームの中で、特にお城めぐりは各年齢を問わず好かれている様です。

国宝、重要文化財指定の現存 12 天守閣の写真と登城時のエピソードを交えて話します。

他、三重、滋賀、両県の知られざる名城を紹介します。最後に菰野町内の古城跡の紹介も行います。

取り上げたデータは文化庁のデータベースを参照しています。件数など数え間違いがあるかもしれませんがご容赦願います。

今こそ学ぼう拙堂に

—地政学の草分け、齋藤拙堂—

講演要旨

拙堂は今から約 200 年前に活躍した津の藤堂藩士であって、藩校有造館の第 3 代督学を務めた全国に著名な漢学者・文人である。

すなわち、彼の文章の幾篇は戦前の中学校漢文読本に載っており、殊に紀行文では彼の撰した「月瀬記勝」にみる如く、全国的に極めて多くの愛読者をもった。だが、彼の本領は経世家であって、今日の我々は拙堂の経世的文章に学ぶところが多い。即ち、拙堂の著作『海防五策』によって、混迷した世界情勢の中に生きる我々は、国を守る知恵を授かることができるのではないかと考えている。

また、国の指導者（士すなわち官僚）のリーダーシップの混迷、情報力の劣化を見るとき、拙堂の『士道要論』や主著『拙堂文話』を是非読んでほしいと思う。

また、「今だけ、金だけ、自分だけ」の人が多い今日、彼の詩と文章から教養と感性を学ぶべきだと思うのである。